



北側外観：日本の伝統建築がもつ「架構の力強さ」と「深い陰影」を、現代の技術でつくることを試みた



1階広間：大きな軒下空間のように水平方向に広がりつつ、樹木に囲われた奥行きのある領域をつくり、開放感と落ち着きを醸し出している



北側全体外観：禅の精神である「必要なもののみが存在することの豊かさ」を求めて、建築を最小限の要素で構成することを追求した



坐禅堂全景：正面の開口と上部のハイサイドライトから周囲の緑が垣間見え、自然の息吹や時の移ろいが感じられる静謐な空間



## 長楽寺 禅堂

CHORAKU-JI 'ZAZEN' HALL

福島市内を流れる阿武隈川のほとりに位置する四百年の歴史を持つ曹洞宗寺院、長楽寺の禅堂の計画である。境内に古くからある木造寺院や樹木との調和を図りながら、現代の技術で新しい禅堂をつくりたいという建築主の要望を受け、自然との融合、伝統建築が生み出す深い陰影、ダイナミックな架構美という要素を現代に置き換え、静謐で高い精神性を持つ空間を創出した。竣工半年後の東日本大震災でも全く被害を受けず、被災した本堂にかわる仮本堂として多用途に活用され、地域コミュニティに大きな役割を果たした。The project is a zazen hall for Choraku-Ji, a 400-year-old temple of the Soto sect located on the banks of the Abukuma River in Fukushima City. The owner wishes to use modern technology to construct a new zazen hall that harmonizes with both the temple's old wooden buildings and the greenery on the premises. We have created a tranquil and highly spiritual space by interpreting in a modern context such traditional architectural elements as the deep shade created by a grand roof, the high floor structure, the fusion between building and nature, the dynamic beauty of the structure, etc.

### 境内の周辺環境に溶けこむ現代の禅堂

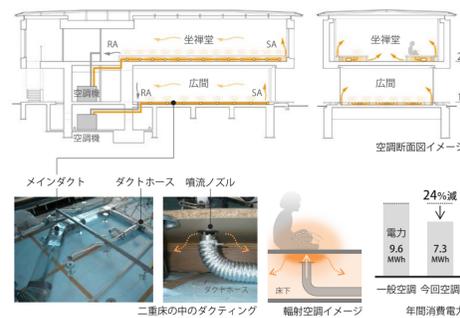
●深い陰影  
坐禅堂を漆喰のボックスに納めて大きくはね出す事で、その下に開放的な広間を設け、周囲の自然環境と一体化させている。屋根の軒や漆喰ボックスは深い陰影を生み、境内に残る伝統建築群との連続性をつくり出している。



●直射日光の制御と庇効果  
1階の広間は三方をガラス窓としているが、上部に坐禅堂がはね出していることによる庇効果と周辺樹木の緑陰効果により、夏期でも殆ど空調設備を用いず快適な環境が保たれている。

### ほのかな空調システム

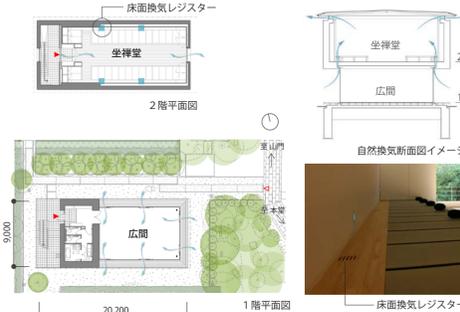
●風を感じない「ほのかな空調システム」  
冬季に座って行われる行事の際など、底冷えしない快適な温暖環境を実現するため、空調空気は二重床の下に給気ダクトを横置きし、床の木板裏に吹き付けられた後、壁際のスリットから室内に供給される計画とした。床裏に吹き付けられた空気はほかに床に伝わり、表面から放射熱を感じることができる。この放射熱の作用により設定温度を控え目にしても空調効果が得られるため、省エネにも寄与している。また、空調機器は1階の機械室に配置し、空調機の運転音を十分に消音することで、坐禅に集中できる音環境をつくり出している。



●上下温度差のない自然な温度環境  
1階・2階ともに床面の外周部から空気を送り出すことでベリメーター部の熱負荷を低減し、暖房時においても上下温度差のほとんどない自然な温度環境を実現している。

### ゆるやかな風のみち

●高床を利用した通風  
1階は三方の開口部より木立を抜ける風を取り入れている。2階は高床を利用して床下の換気スリットと床面の換気レジスターをダクト接続して外気を取り込み、ハイサイドライトから排気する、ゆるやかな風のみちを設けている。



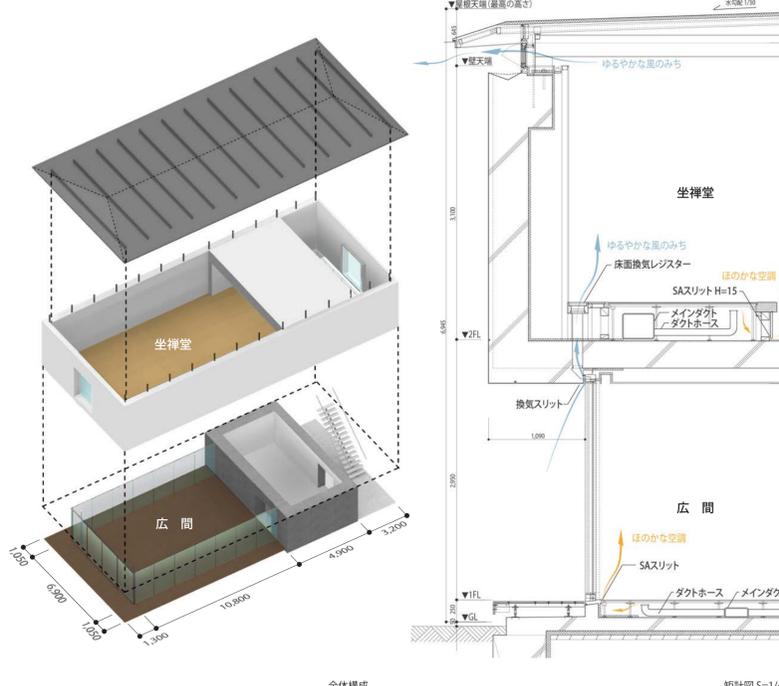
●窓と一体化した手すり  
坐禅堂の正面には樹林を望む大窓（W1,800 H2,100）を設けている。中間期にはこの窓を開放し心地よい涼風を得ることができる。その際には窓障子と一体化になった転落防止用手すりが引き出される。



評価項目	評価項目に対する設計者のデザイン意図	+1	+2	小計	
A. 感性軸 (造形) Form	01 斬新性	互色の無彩色調、漆喰、杉板の化粧材にコンクリートなどの素材が美しく構成されている	○	2	2
	02 親しみ	シンプな形態ながら、軒先や漆喰のボックス下の壁などに陰影をつくる事で、境内の伝統建築との連続性を感じさせる	○	2	2
	03 馴染み	坐禅堂内納した漆喰のボックスは約200mm厚、120mmの縁を兼ねるのみで実現されているため、まるで床に浮いているように感じられる。その下の庇効果は屋根に由来し、緑の風をへしこみ込んでいる	○	2	2
	04 奥行き	縁側から境内の中心部の漆喰のボックスを浮かべた構成が、坐禅堂を奥行きに演出している。	○	2	2
	05 完成度	伝統建築の要素である漆喰の壁、漆喰、杉板などの要素を現代に置き換えて既成し、ディテールを細部にまで作り込むことにより、静謐で高い精神性を持つ空間を創出した。	○	2	2
B. 機能軸 (技術) Technology	06 機能性	2階の床裏は、自然の光に導かれ、ハイサイドライトとして広く開放する一方、1階の床裏は漆喰ボックスにダクトを接続して給気スリットとして活用している。奥行き利用が実現されている。	○	2	2
	07 効率性	基礎ピット内を空調機に接続し、床下から空調機を稼働させるなど早期かつ断熱的コンパイルを確保している。	○	1	1
	08 利便性	2階のコンパイルを構成する多層構造の床下空間を確保している。	○	2	2
	09 安全性	2階の床裏の床下空間には、防炎材にF1X材として使用。断熱材には難燃性難燃剤が配合されている。	○	2	2
	10 高耐久性	新しさを長く保つ。幅広い気候に耐えうる期間的の確保としてあらゆる方向性を保っている。	○	2	2
C. 社会軸 (環境) Environment	11 環境負荷	自然環境の破壊、気候、2階の床裏のほかに自然の環境を必要としない環境負荷低減に寄与している。	○	2	2
	12 資源消費	基礎地盤に再生クラッシュを使用するなど資源消費削減に寄与している。	○	1	1
	13 地域環境性	周辺環境に配慮し、自然環境の破壊を最小限に抑え、静謐な空間を演出している。	○	2	2
	14 コミュニティ性	シニア大学の芸術学系主催の11の造形アート展が開催されるなど、国際を超えてデザインが認められ、活用されている。	○	1	1
	15 汎用性	坐禅堂は各種用途、ギャラリー、イベント、ワークショップなどとして幅広く活用されており、高耐久性と高い空間的価値を兼ね備えている。	○	2	2
D. 経済軸 (LCC) Life Cycle Cost	16 イノベーション	空調機を基礎ピット内に設置し、床下空間を利用することで、風量を低減しエネルギーコストを削減している。	○	1	1
	17 シンキングコスト	「ほのかな空調システム」により暖房時でも空調機が稼働し、省エネを実現しながらランニングコストを削減している。	○	2	2
	18 維持管理	深い、しつこい曇りの汚れが自然の光により、自然の汚れを防止している。高耐久性のフィルター交換などは手の届く範囲にあり、簡単なメンテナンスができるよう配慮されている。	○	2	2
	19 耐久性	既成のコンパイル構造により十分な耐久性を持ち、東日本大震災でも全く被害を受けず、被災した本堂にかわる仮本堂として活用されている。	○	2	2
	20 LCC	耐久力のある外観、低ランニングコストによる日々の維持費の削減、自然環境・自然環境の活用、省エネによる低コストな空調方式により、総コストを削減している。	○	2	2

#### 建築概要

建築名称 長楽寺禅堂  
 建築主 宗教法人 長楽寺代表役員 中野重孝  
 設計施工 株式会社竹中工務店  
 建築地 福島県福島市舟場町3-10  
 用途地域 第一種住居地域  
 建物用途 寺院  
 構造 RC造一部S造  
 階数 地上2階、地下1階  
 建築面積 181.80㎡  
 延床面積 343.71㎡  
 最高高さ 6.95m  
 竣工年月 2010年8月



全体構成

矩計図 S=1/40